

進路通信

5月20日

学部・学問情報

◆外国語学…国際理解のため、外国の言語と文化を学ぶ

【学問の内容】

外国語学は、特定の国や地域の言語を修得していくことと、その言語が使われている国や地域に関するさまざまな研究を進めることの2つから成り立っています。この2つは深くつながっており、ある言語を学ぶには、その地域の歴史をはじめ気候・風土、文化、民族、社会、経済など、言葉だけでなく、その地域のさまざまな部分について、深い知識が必要となります。また逆に、その地域をより深く理解していくためには、そこで用いられている言語の知識は欠かせません。

言語自体の研究では、文法や語法をはじめ、言語史、語彙論、語源研究、方言研究など様々な内容があります。また実用的な語学の能力を身につけ、会話ができるようになることも大きな目的の1つです。地域研究は、言語の研究に欠かせないもう1つの側面で、その国の社会や経済のあり方といった、社会科学の領域へも踏み込んで研究していきます。異なった文化を有する国や地域との交流のあり方なども理論的に学びます。また、最近ではアジアの言語の研究が活発で、日本語を“外国語”としてとらえる日本語研究も盛んです。

【卒業後の進路】

習得した語学力を生かすことによって、商社、メーカー、航空会社、サービス業、外資系の企業など就職先は多種多様。英語教員や国際公務員の希望者も多いが、狭き門である。通訳や翻訳家になるために、卒業後も外国の大学や大学院に留学する人もいます。民間の語学スクールの講師として専門性を生かす人もいます。

◆国際関係学…国と国が相互理解できる世界をめざす

【学問の内容】

国際関係学は、国際社会における国と国との相互理解をめざし、世界平和を築くための学問です。現代の国際関係はさまざまな要素が複雑に絡み合いながら成り立っているため、広い視野に立って複雑に絡み合った問題を解きほぐすことが要求されます。

平和の追求は人類にとって最も大切な使命です。しかし民族紛争や核実験など、世界平和への課題がまだ数多くあります。国際情勢は先が不透明で、しかも大変な速さで変化しており、国際関係学で取り組むべき問題は山積みされています。

現在、多くの大学は国際社会で活躍できる“国際人の育成”を目標に掲げています。それには、豊かな教養と世界の国々の事情を把握した国際感覚、“国際的な場で活躍したい”という明確な目的意識と複雑な問題を分析できるだけの広い視野、さらには語学力も必要とされます。

【卒業後の進路】

商社やメーカーなどで、国際的視野と語学力を生かした職種に就く人が多い。ほかに専門を生かせる職業としては、外交官や国際公務員、通訳、観光ガイド、マスコミ関連、海外経済協力機関の職員などがある。また、最近では大学院への進学や、留学も増えている。